

# 被災地へペット保護に協力を

## 一時預かりや里親求む

### 上京で講演会

東日本大震災の被災地に取り残された飼いの猫などを保護する「ペットレスキュー」について考える講演会が29日、京都市上京区仁和寺街道七本松西入りの喫茶ゆすらこで開かれた。福島県内で活動するフリーライター滝野沢優子さんが現状や課題を報告した。

福島では、原発事故の影響でペットや家畜を残して避難せざるを得なかった住民が少なくない。今では野生化

したネコを中心に一時に預かり、里親を探す活動などに取り組む任意団体「福島被災動物レスキューRAID」代表の新井美由紀さん、伏見区が、連携する滝野沢さんを講師に招いた。

滝野沢さんは震災直後からペットレスキューに関わり、現在は浪江町と葛尾村で餌やりを続けている。当初に比べるとレスキューのボランティアが減った

一方、今なお「自分たちの給餌で命をつないでいるペットがいる」とし、「二匹でも多くの命を救うため、京都の方にも一時預かりや里親で保護に協力してほしい」と訴えた。

(堀内陽平)



福島県内でのペットレスキューの現状を報告する滝野沢さん(中央)＝京都市上京区・喫茶ゆすらこ

## 動物愛護の拠点 完成祝う

### 南区「愛ランド・京都」内覧会



動物愛護事業の拠点として4月に開設する「京都動物愛護センター 動物愛ランド・京都」(京都市南区上鳥羽)

京都府と京都市が共同で整備した「京都動物愛護センター 動物愛ランド・京都」が4月1日に開設するのを前に、記念の内覧会が

事業の拠点となる施設の完成を祝った。センターの敷地面積は1万1千平方メートル。保護した犬猫の一時保管所や会員制のドッグラン(約3千平方メートル)、有料のトリミングルーム、獣医師会と連携した夜間動物救急診療所などを設けた。災害時は被災動物の保護や治療などの拠点施設としても機能する。昨年8月に着工し、総事業費は約6億円。

内覧会では、門川市長が杉本さんに名誉センター長の任命書を手渡し、「先進的な動物愛護事業として、人と動物が共生できるモデル

## 学生時の経験 丹後に還元

### 京丹後で催し 市民ら90人受講



「学長」役の川戸さんの講義を聞く参加者たち(京丹後市網野町・旧郷小学校)

ルとしたい」とあいさつ。杉本さんも「開設でサポートする」と述べた。

(今野麦)

29日、京都市南区上鳥羽の同センターであった。門川大作市長や名誉センター長でタレントの杉本彩さんら約60人が出席し、動物愛護

丹後出身の大学4年で開かれ、市民ら約90人が受講した。丹後出身の学生グループ「り」とるたんこ

が、経験や成長を地域

今年の前年の初市の

J A京都やましろの